一般体育実技受講生の体育観

山　根　成　之

I　緒　　言

「教育は各個人の能力に応じてなされなければならない」このことはいづれの教育書にもみられる事がらである。体育にあっても，上記の如く個人の能力によるところのカルテが作成され，それに基づく綿密なる計画がなされ，指導が行われるべきである。

しかし，現状では施設，用具の貧弱さに加え，人的その他の種々なる困難な条件のため個人別なる指導はほとんど不可能に近く，本学の一般体育実技にあっても一斉指導形式がとられているのである。上述の如く現在，一般体育実技は農学部，教育学部，医進課程の学生に略同一と思われる条件のもとに於て実施されている。

昨年度（昭和41年度）の一般体育実技の授業時間（1単位）に於ける二年次の出席状況をみると次の如くである。即ち三回以上の欠席者をみる，工学部（12.4%），農学部（16.9%），教育学部（20.4%），医進課程（31.3%）であり，逆に全出席者数をみると，工学部（38.1%），農学部（30.6%），教育学部（24.1%）医進課程（17.9%）と略同一環境で授業を行っているにもかかわらず，このような体育実技に対する態度の差がみられるのである。

その他一般的に感ずる態度として，農学部は荒っぽい感じがし騒がしいが，何かやりだすと良くまとまって一致団結しやすく，注意を与えてもなかなか守られにくい。教育学部については，おとなしく気力に乏しい。規則は比較的守られる。医進は卒先して行うというよりは後にくっついて行く感じが強く，体育に対して興味が薄そうだ。工学部にあっては中間的な感じをうけ，真面目に体育実技を行っている。以上は男子学生のみについてである。

こういった感じ方は私個人のものだけであろうか。もし上述のことが事実とするならばそれはどういったところに原因があるのだろうか。又それが事実とするならば，それぞれの特徴に似合った指導がなされることが望ましいことはいうまでもない。

人が或る事がらをどのようにとらえるか，どのような態度を示すかは何によって決定されるものであろうか。それは大凡その人の環境であり，その事がらに対してどのような価値観を有しているかによるものと思われる。

個人個人の環境がどのようなものであったか，これについて知ることは困難である。しかし環境と性格が関係深く，性格は環境により影響され易いことから，性格をみれば環境の或る一面をとらえたといっても良いだろう。

この性格と体育に対する価値観（体育観）が体育に対する態度を決定するといっても過言ではあるまい。

以上の観点により性格と体育観との関係を，一般体育受講生を対象にみて行きたい。

Ⅱ　調査の概要

（1）調査対象及び人数

一般体育実技受講学生1年次及び2年次の男子学生

	農学部	工学部	教育学部	医進
1年次	81	93	49	87
2年次	134	59	35	29

Table 1

（2）調査方法

Y—G性格検査を実施し，合せて体育に関する調査を質問用紙法にて行う。

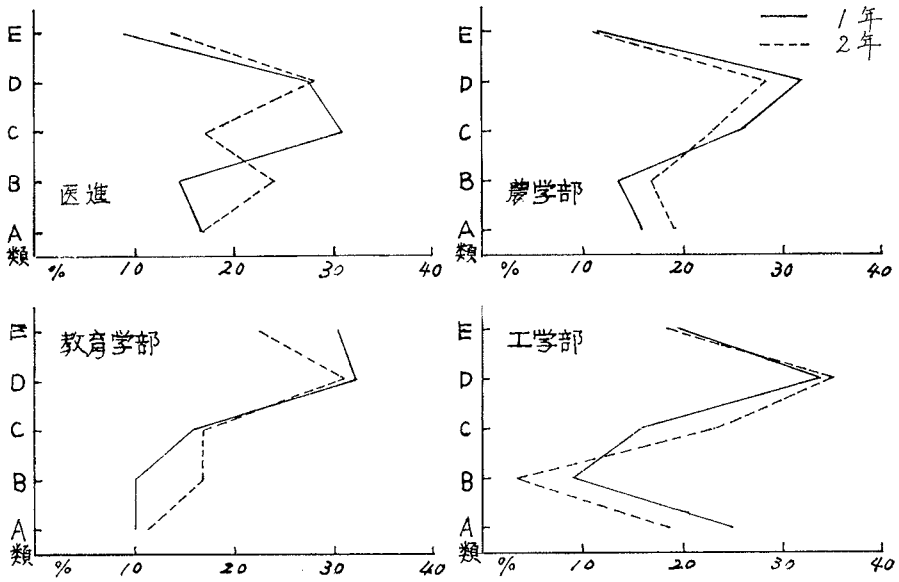
質問用紙には一般体育実技の授業に際しての心構えを，（A）積極的目的，（B）消極的目的，（C）無目的の三つに分離し，（A）については更に (1)心身の鍛錬に関するもの (2)技術的なもの (3)社会的目的に関するもの等の項目を設け，（B）については (1)レクリェション的なもの (2) 緊張の解消 (3)自己中心的もの等の項目をあげそれぞれの項目の下に二つづつの質問項目を設けた。又（C）については「ただ何となく」「単位を取るため止むを得ず」の二つの質問項目をあげた，従って合計14の質問項目からなる質問事項目，及び運動クラブの所属に関する事項から成る質問用紙である。

以上14項目から成る質問項目の中より体育実技に対する心構えに該当するものにチェックをさせ集計したものである。なお選択する項目の数には制限を加えなかった為，集計では100％を越えるものである。

Ⅲ　結果と考察

（A）Y—G検査の結果

(イ)Y—G検査による性格分類は<Fg1>の如くである。医進のB，C類及び教育学部のB類で1，2年が少し離れた割合を示しているのを除いては各学部ともほぼ1，2年の傾向が同じである。このことより学部独特な性格があるように思われる。



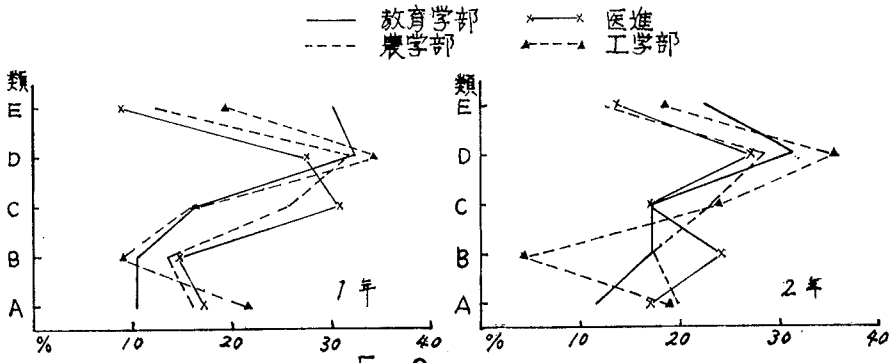
Fg. 1

(ロ)学部間の性格分類を比べてみると，<Fg 2 > 教育学部はA類が少く，E 類が1，2年ともに多くを占め「……情緒不安定，ノイローゼ傾向の強い……」[1]ことを示している。

工学部はD類が多くB類が少い特徴がある。

医進は工学部と逆の傾向，即ちD類は少く，B類は四学部中一番多くを占めている。

農学部はだいたい中間的な存在とみて良い。

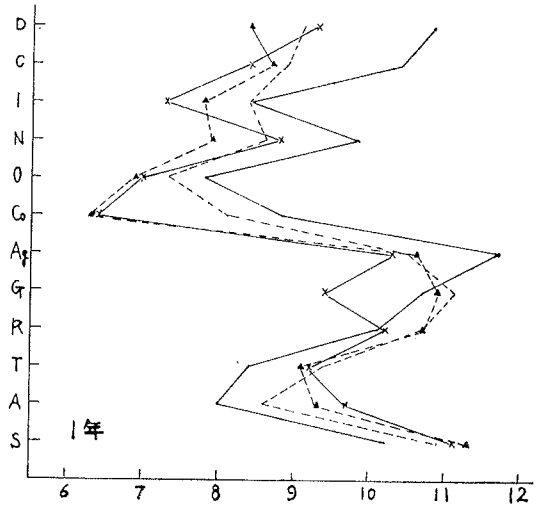


Fg. 2

(ハ)各学部の性格特性はどうであるか。これをみるために十二の因子についてみたものが<Fg3>である。

教育学部においては1，2年とも抑うつ性※（D）が大きく，気分の変化※（C）も大，神経質傾向（N）も大，即ち情緒不安定を示している。又服従的（A）であり社会的内向※(S)であることから非主導的であるということが出来る。

医進においては，一年は非活動的（G）であるが2年ではそういう傾向が表われていない。2年では社会的外傾（S）を示すが1年では際立って目につかない。このように1年と2年との間に差がみられるが，これは(イ)のところで医進に於ける性格分類の割合が1，2年でくい違いを示していたことのあらわれとみられる。



Fg. 3

工学部は教育学部と逆の傾向を示し，抑うつ性（D）小，劣等感（I）小，神経質（N）でない，即ち情緒は安定している。又社会的外向である。これは(ロ)のところで工学部はD類（最も理想的人格）が多かったことのあらわれである。

農学部はこれといった特徴がみられず各因子とも中間的な値を示している。

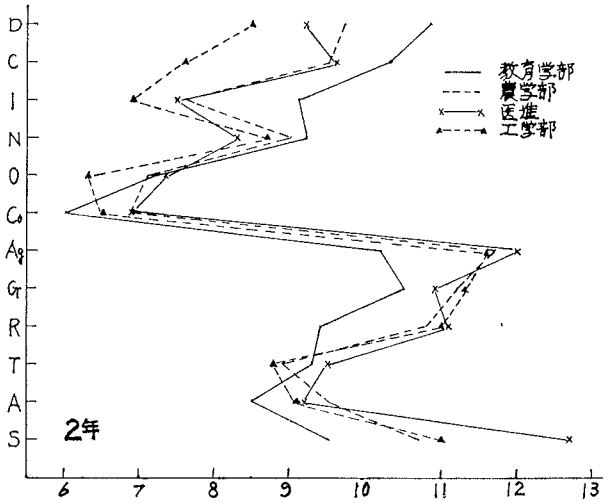
（B）体　育　観

(イ)性格別にみた体育観

性格分類におけるA″型，AB型，AC型，AD型，AE型はそれぞれ混合型であり，AB型はA型とB型の混合タイプであることを意味する。もし性格別の体育観があらわれるものとするとAB型の者の体育観はA型とB型の者の中間的傾向を示すものと考えられる。以上の意味からこの項における混合型は集計から除外した。なお混合型の数は次の通りである。

1年　工学部10，教育学部3，農学部11，医進15

2年　工学部8，教育学部3，農学部20，医進4



※　教育学部と工学部間の有意検定の結果25%Levelで有意差を認めた。

性格により体育観が異るかどうか，これをみたものが<Table.2>である。
積極的目的の最高値は1年170.2%のD類で最低はC類である。2年は最高E類の115.2%最低D類である。又消極的目的に対しては1年のA類が242.9%を示すのに最低はC類の63.0%，2年次最高245.5%のB類，最低はC類の195.0%といった具合に積極的目的，においては性格による差は認められない。

目的＼性格 学年		A	B	C	D	E
積極的目的	1	150.0	154.5	63.0	170.2	146.5
	2	113.5	109.1	112.5	92.5	115.2
消極的目的	1	242.9	200.0	63.0	181.0	220.9
	2	186.4	245.5	195.0	214.9	224.2
無目的	1	28.6	36.4	14.8	11.9	16.3
	2	27.3	50.0	25.0	20.9	21.2

Table 2

しかし，1年C類において積極的目的，消極的目的の両者にわたって著しく低い値を示しているのである。これはC類の性格特性が「この型の人は所謂おとなしい消極的な安定した，もの静かな人であるが活動性がなく……」(1)といったことから体育に対する関心が薄く，従ってこのような結果が表われたものであろうか。しかし，2年においてはこのような傾向はみられないのである。すると同じ性格でも二年次になって体育に関する見方が変化したものとみるべきか，偶然なる結果とみなすべきか一つの課題といえる。

積極的目的（心身の鍛錬，技術的目的，社会的目的）をみるとC類を除く他の性格では，1年の方が2年に比べて高い値を示している。即ち1年は2年に比べより積極的目的をもって体育実技に臨んでいる。

それに対し消極的目的（レクリェション的，緊張の解消，自己中心的）においてはA類を除く他は1年よりも2年の方がはるかに大きい割合を示している。つまり一年と二年を比較した場合，2年は1年に比べ体育実技をあまり堅苦しく考えないで，気軽に，リラックスした態度でとらえているのである。

先に積極的目的，消極的目的においては性格による差はみられないと述べたが，無目的な態度（ただ何となく，単位をとるため止むを得ず）をとる者は1年次ではB類の36.4%が最高で，2年もやはりB類の50.0%が最高と1，2年ともにB類である。B類の性格特性として「……パーソナリティーの不均衡が外へあらわれやすい人で，反社会的行動に出やすく……」(2)といったことからくるものと思われる。逆に無目的態度の少い性格をみると1，2年ともD類で1年11.9%，2年

20.9%となっている。D類は「最も理想的人格の持主で……」[3]という性格特性を有している。

(ロ)学部別にみた体育観

積極的目的では学部による特徴はみられない。が学年別にみると積極的目的の中の「心身に関するもの」については1年は58.7%～84.3%であるのに対して2年では42.1%～65.0%と低く，「技術に関するもの」においても1年44.3%～63.1%，2年6.3%～43.1%と2年は低い値になっている。このように2年が一年に比べて低いのは前項イ)でみたことと同じである。「技術に関するもの」の中「クラブ活動にプラスしたい」と答えた者は，1，2年を通して10.9%以下になっている。しかし一方運動クラブ活動に所属している者をみると1年で41.0%，2年では30.4%の多くにわたっている。このように運動クラブに所属している割合よりも「クラブ活動にプラスしたい」と答えた割合が少いということは，彼等は体育実技の授業とクラブ活動というものを技術的には関連づけないで，クラブ活動はクラブ活動，授業は授業といった具合に割切った考え方をしている証拠であろう。「社会性に関するもの」では1，2年とも工学部が多い。これは性格分類上工学部はD類が一番多く，D類は「……対人関係もうまく行くタイプであり」[4]ということと一致する。

目的＼学部	学年	教育	医進	農	工
積極的目的	1	130.6	136.8	148.1	158.1
	2	94.3	113.8	85.8	128.8
消極的目的	1	198.0	166.7	187.7	202.2
	2	202.9	196.5	217.9	215.3
無目的	1	16.3	41.4	18.5	10.8
	2	28.6	31.0	23.9	22.0

Table. 3

学部	学年	積極的目的						消極的目的								無目的	
目的		心身に関するもの		技術に関するもの		社会性に関するもの		レクリエーション的		緊張の解消		自己中心的				無目的	
		身体を鍛える(体力・運動)	精神的にプラスしたい	スポーツ技術がもっと身につけたい	クラブ活動にプラスしたい	社交性を身につけ[illegible]	将来スポーツ[illegible]したいと思う	気分転換	楽しみ	ストレス解消のため	エネルギーの発散のため	自己を満足させる	学生生活が楽しくなる			特に何となく	単位をとるために出席する
教育	1	58.7		63.1		28.3		100.9		30.4		58.7				13.1	
		50.0	8.7	52.2	10.9	10.9	17.4	37.0	72.7	13.0	17.4	32.6	26.1			2.2	10.9
	2	65.6		6.3		21.9		103.1		62.5		37.5				28.2	
		46.9	18.7	6.3	0	15.6	6.3	50.0	53.1	21.9	40.6	15.6	21.9			6.3	21.9
医進	1	80.6		45.8		15.2		88.9		30.6		43.0				41.6	
		63.9	16.7	37.5	8.3	6.9	8.3	48.6	40.3	16.7	13.9	8.3	34.7			9.7	31.9
	2	52.0		28.0		20.0		124.0		40.0		28.0				36.0	
		48.0	4.0	24.0	4.0	0	20.0	64.0	60.0	28.0	12.0	4.0	24.0			8.0	28.0
農学	1	84.3		44.3		24.3		98.6		54.3		37.1				15.7	
		62.9	21.4	38.6	5.7	8.6	15.7	34.3	64.3	22.9	31.4	17.1	20.0			2.9	12.8
	2	42.1		30.7		20.2		115.7		52.6		50.9				24.6	
		34.2	7.9	25.4	5.3	7.9	12.3	59.6	56.1	26.3	26.3	18.4	32.5			3.5	21.1
工学	1	77.1		57.8		31.4		107.3		55.4		44.5				9.6	
		55.4	21.7	51.8	6.0	14.5	16.9	41.0	66.3	25.3	30.1	9.6	34.9			3.6	6.0
	2	62.7		43.1		25.5		103.9		74.4		45.1				19.6	
		49.0	13.7	33.9	9.8	11.8	13.7	45.1	58.8	33.3	41.1	9.8	35.3			5.9	13.7

Table 4

消極的目的についても学部による差はみられず1年よりも2年が多くなって体育に関する考え方が1年よりレクリェーション的になっていることを示している。このことについても前項(イ)でみたことと同じである。中でも体育実技に出席するのは「楽しみ」或いは「気晴し」のためとする所謂レクリェーションの為という考え方が，多くは124.0％にも及んでいる。「緊張の解消」「自己中心的」なものに於ても学部による差はみられない。しかし「エネルギー発散のため」とか「ストレス解消のため」の如く体育実技を自分なりに合理的に取り扱っていることも見逃せないことである。又「自己中心的」の中の「学生生活に変化をもたせる」という項目などにも可成りの数値がみられるが，このことは運動すること自体が彼等の生活にとって一つのアクセントの如く考えられているようである。

無目的についてみると1，2年とも医進の割合が他学部より一段多く，1年で41.4％，2年で31.0％にも及んでいる。中でも「単位をとるため止むを得ず」という半否定的な考え方が1年31.9％，2年28.0％で，「ただ何となく」という者は10.7％以下である。

(イ)の性格別に体育観をみたところによると無目的態度をとるものはB類が多いということ，医進にB類が一番多いということは，医進に無目的態度をとる者が多いことと一致するのである。

その逆に工学部は無目的態度は少く，又B類も少いということも一致するのである。

以上みてきた如く，積極的目的，消極的目的における学部による差は認められない。なお1.2年ともに積極的よりも消極的目的が多い。特に2年になると積極的目的が減少し消極的目的が増加するのでその差は大きくなっている。

Ⅲ　総　　括

全般的にみて体育実技はレクリェーションとして学生に受けとられ，体育実技は「楽しみ」のためであるとか「気晴し」のためという考が全体の105.9％にも及び体育実技＝recreationという考え方に基礎をおいていると云えよう。

しかし，反面「心身のため」ということもはっきり意識し，全体の65.3％が心身という角度から全体実技をとらえている。「心身」のうちでも「身体を鍛える」については50.7％が意識し「精神面」における14.2％よりもはるかに大きい。体力問題を良く耳にする昨今，彼等は意識してか，無意識のうちにかこの体力問題を感じ体育実技に期待しているのである。

技術的なものについての関心も高く，「技術が上手になりたい」と願っている者は全体の35.5％にも上っている。

その他「ストレス解消のた」とか「エネルギー発散のため」という所謂うっ憤ばらしの考え方も可成りあり，体育を「学生生活に変化をもたせるため」の如く，学生生活のアクセサリーというかアクセントとして体育をみているのも目立つ事項である。

一年のC類では積極的目的，消極的目的について低い関心しか払われていないが，二年ではそう

いった傾向はみられない。二年次になって体育実技に対する考え方が変化したものかどうか。今回は横断的にみたのであるが，従断的に追跡してみないと分らない。一つの課題である。

体育実技に対し目的をもっていない者，つまり「ただ何となく行っている」とか「単位をとるために止むを得ず」といった者は1，2年ともB類が多くを占め，学部では医進である。このことは性格分類のところで医進にB類の割合が多いこと一致するのである。逆にD類に於ては無目的が少く，そのD類の占める割合の大きい工学部は無目的が少いという事は一致するのである。

積極的目的，消極的目的では性格分類による差，学部別による差は認められないが無目的に関してはB類が多いということが出来る。

積極的目的は2年より1年が高い。消極的目的は1年より2年が高い。無目的を占める割合は1年より2年が高い。以上のことから一年は積極的に体育と取り組んでいるが二年になると体育＝recreation の考え方が強まり，更に無目的の割が増加している。

〔参　考　文　献〕

(1)(2)(3)(4)　辻岡美延　Y－G検査実施手引　P14
北村仁　1963　体育学研究　8巻1号　P214
桜井キヨ　他　1963　体育学研究　8巻1号　P200

正　　誤　　表

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
7	20	意味に別される	意味に区別される	111	14	$A_4A_k\ A_{k+1}\cdots A_n$	$A_1A_k\ A_{k+1}\cdots A_n$
〃	24	物自体とに区制する	物自体とに区別する	190	15	development,	development.
13	13	経験的実存在	経験的実在性	195	8	Grcen	Green
25	15	対象の現象性質	対象の現象的性質	216	19	通じ工場で働く	同じ工場で働く
26	1	心性の一つの	心性の一つの	〃	30	lily	Lily
27	20	menon)」(9)	menon)」(9)	217	14	工場に関しているが	工場に関係しているが
28	脚注(11)	H. vaihinger	H. Vaihinger	220	7	besautiful	beautiful
29	20	主観ら独立に	主観から独立に	224	11	Creen	Green
〃	22	主観から独立存する	主観から独立に存する	248	10	三つに分離し	三つに分類し
31	8	でなはく	ではなく	〃	21	<Fg 1>	<Fig 1>
〃	18	そような観点	そのような観点	249	図	Fg 1	Fig 1
43	25	ようにもわれる	ようにおもわれる	〃	1	<Fg 2>	<Fig 2>
46	14	無制約者をして	無制約者として	〃	図	Fg 2	Fig 2
53〜69	奇数頁上	「第三の道」（マンハイム）批判	「第三の道」（マンハイム）批判-序説	250	5	社会的外傾	社会的外向
				〃	図	Fg 3	Fig 3